



## 大阪市立科学館・市民観望会

大阪市立科学館天文台では、年に8回ほどの市民天体観望会のほか、しし座流星群や日食、火星大接近などの天体現象にあわせて特別観望会を開きます。また、機材の貸しだしは行っていませんが、観望会スタッフが望遠鏡を持参して出前観望会を行っています。

**場所** 北緯34.7度 東経135.6度 海拔40m（観測ドーム位置）

**設置** 1989年10月

**設備** 50cm反射望遠鏡・移動式35cm反射望遠鏡・移動式小型望遠鏡および双眼鏡・画像取得装置・流星電波観測装置ほかLAN設備など

### 50cm 反射望遠鏡

製作：西村製作所（京都府京都市） 4.7m観測ドームに内蔵

口径：50cm F/12（カセグレン焦点） F/4（ニュートン焦点）

架台：フォーク式赤道儀 全電動 コンピュータ制御可能

35mm写真カメラ・Cマウントビデオ取り付け部

空気冷却CCDカメラ（英アストロメッド社製）

水冷却CCDカメラ（ビットラン社製）

光電測光装置

一般観望用接眼部（システムチャート）

### 35cmシュミットセグレン望遠鏡

口径 35cm セレストロン製シュミットカセグレン式

架台：旭光学社製ドイツ式赤道儀MS-4 一般観望用接眼部

### 移動式望遠鏡+脚立

口径 12cm反射式望遠鏡5台・ビクセン社製SPおよびGP赤道儀+電動追尾

口径 8cm屈折式望遠鏡5台・ビクセン社製SPおよびGP赤道儀+電動追尾

口径10cm宮内光学製双眼望遠鏡

口径5cmビクセン社双眼鏡6台+ベルボン三脚6台

市民観望会の会場となる屋上は、鉄骨造なので人が走ると若干揺れます。とくに倍率を上げると画像が揺れます。普段はピラー+屈折3台と反射1台、たまに10cm双眼鏡を使用。

北東に接近して高さ200m近い新関電ビルが満月並みの明るさを提供し、北西には超高層マンションが壁のごとく建っています。唯一南側に土佐堀川があるため南天を観望することができます。

